

令和8年度 協働提案事業選考結果報告書

令和8年9月

小牧市健康生きがい支え合い推進部支え合い協働推進課

目 次

1. 協働提案事業化制度の概要

- (1) 制度の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (2) 各提案タイプの状況
 - 市民提案型 “きらめき” ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 - 行政提案型 “はばたき” ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

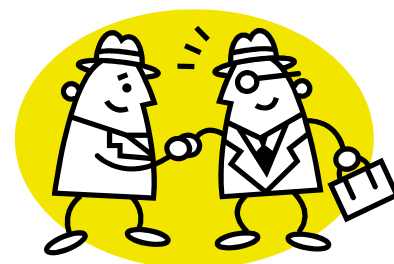
2. 提案事業の選考について

- (1) 選考の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- (2) 各提案タイプの選考状況
 - 市民提案型 “きらめき” ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
 - 行政提案型 “はばたき” ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

1. 協働提案事業化制度の概要

(1) 制度の目的

市民（市民活動団体）と行政それぞれが、協働で取り組むべき地域課題等を提案し、解決に向けて取り組むことにより、小牧市を「市民が輝く活気あふれるまち」とすることを目的とする。



(2) 各提案タイプの状況

市民提案型 “きらめき”

【内 容】

市民(市民活動団体)から行政へ協働事業を提案するタイプ

【応募資格】

- 1) 小牧市市民活動推進条例に基づく「市民活動団体」として登録している団体で、『まちを育む 市民と行政の協働ルールブック』に定める事項を遵守できる団体

《市民活動団体の条件》

1. 市民活動を行うことを目的とした団体であること
2. 3人以上の会員を有していること
3. 主に市内で活動している、または活動の拠点が市内であること
4. 代表者や運営方法が、定款、規約、会則等で決まっていること

- 2) 原則として、団体としての活動実績が1年以上ある団体
- 3) 提案事業の契約を有効に締結できる団体

行政提案型 “はばたき”

【内 容】

行政から市民(市民活動団体)へ協働事業を提案するタイプ

【応募資格】 ※行政提案事業に対する応募団体

- 1) 小牧市市民活動推進条例に基づく「市民活動団体」として登録している団体で、『まちを育む 市民と行政の協働ルールブック』に定める事項を遵守できる団体

《市民活動団体の条件》

1. 市民活動を行うことを目的とした団体であること
2. 3人以上の会員を有していること
3. 主に市内で活動している、または活動の拠点が市内であること
4. 代表者や運営方法が、定款、規約、会則等で決まっていること

- 2) 原則として、団体としての活動実績が1年以上ある団体
- 3) 提案事業の契約を有効に締結できる団体

2. 提案事業の選考について

(1) 選考の流れ

【ヒアリング】

○令和8度実施協働提案事業ヒアリング

《実施日》令和8年7月31日（金）

【一次選考】

○協働のまちづくり実務者会議

○第5回小牧市市民活動促進委員会

《選考日》令和8年8月26日（水）

委員長：奥村 智子 氏

（愛知文教女子短期大学 教授、愛知文教大学 非常勤講師）

副委員長：三島 知斗世 氏

（(特非) ボランタリーネイバース副理事長、調査研究部長）

委員：戸成 司朗 氏

（(一社) 中部サステナビリティ&ウェルビーイング推進センター 代表理事、

(特非) 中部プロボノセンター 顧問）

委員：立川 雅弥 氏（(特非) こまき市民活動ネットワーク 事務局長）

委員：藤岡 典一 氏（(特非) 岡崎まち育てセンター・りた 事務局総務リーダー）

委員：伊藤 かおり 氏（住友理工株式会社 環境推進部担当次長）

委員：大句 規代美 氏（ボランティアセンター運営委員会）

委員：鈴木 佳世 氏（ウィメンズネットこまき 代表）

委員：森田 弘子 氏（公募委員）

【二次選考】

○協働提案事業選考委員会

《選考日》令和8年9月17日（木）

(2) 各提案タイプの選考状況

①市民提案型 “きらめき”

《選考要領》

【一次選考】協働のまちづくり実務者会議、小牧市市民活動促進委員会

協働のまちづくり実務者会議各検討グループ、小牧市市民活動促進委員会委員により、下記選考項目について採点基準を用いて採点を行った。

《選考項目》

	項 目	内 容	補正值
1	必要性	実施する価値はあるか。市民ニーズに沿っている事業か	×2 点
2	公益性	公益的な事業であるか	×1.5 点
3	協働性	協働することで、より一層の効果が期待できる事業か	×1 点
4	効果性	第三者に対する具体的な効果や成果が期待できる事業か	×1 点
5	展望性	事業のビジョン(到達目標)が明確にされているか	×0.5 点
6	適正性	予算の見積もりは妥当か	×0.5 点
7	実行性	実行可能なスケジュールや事業内容か	×0.5 点

《採点基準》

点 数	評 価
5点	優れている
4点	やや優れている
3点	普通
2点	やや劣っている
1点	劣っている

①事務局で作成した採点集計表を提出し、採点結果の確認を行った。

②採点結果の確定、コメントの整理を行った。

※協働のまちづくり実務者会議と小牧市市民活動促進委員会の採点の結果、得点率がいずれも60%未満の事業は、一次選考で不採択とし、それ以外の事業は、一次選考通過とする。

【二次選考】協働提案事業選考委員会

一次選考の内容を踏まえ、事業の採択について協議した。

《選考結果》 ※得点率については、小数点第2位切捨て

No.1		提案事業名：桃花台活性化事業							
提案団体名		桃花台を考える会							
事業概要	人口減少が急速に進んでいる桃花台ニュータウンを持続的なまちとするために魅力、活力のあるまちづくりを協働事業で行う。小牧市が制定した「東部振興構想」の実現のため、市と協働した活動を進める。 文化の醸成推進事業 ➢桃花台音楽まつりの開催（2回/年） ➢音楽講座の開催（3回/年） これまで「住民まちづくり参加推進事業」「空き家発生予防活動事業」「文化の醸成推進事業」を3本柱として取り組んできたが、これまでの実践を通じて、住民の参画促進や空き家対策といった課題の持続的な解決には、それらの土台となる地域文化の醸成が不可欠であるとの認識に至った。このため、現段階においては「文化醸成」を優先的に強化すべき基盤的取組として位置付け、施策の重点化を図ることとした。 文化醸成の強化により、地域への愛着や関心を高め、結果として若者の自発的な関与を喚起するとともに、中長期的にはまちづくりへの主体的かつ継続的な参画、さらには空き家発生の抑制といった波及効果につなげることを目指す。 また、会員の高齢化が進んでいることを踏まえ、今後は若い世代の会への参加を促し、その意見を取り入れながら、文化醸成を軸に他の取組へと発展させていきたいと考えている。 以上の理由から、来年度は音楽講座と音楽まつりに重点を置き、着実に成果を積み上げながら、今後の展開につなげる。								
	協働のまちづくり実務者会議								
	各項目の点数及び得点率	必要性	公益性	協働性	効果性	展望性	適正性	実行性	合計
		48/70	31.5 /52.5	24/35	18/35	10/17.5	11.5 /17.5	11/17.5	154 /245
		68.5%	60.0%	68.5%	51.4%	57.1%	65.7%	62.8%	62.8%
コメント	・地域文化の醸成を住民参画や空き家対策の土台として位置付ける方向性は評価できるものであり、音楽講座や音楽まつりを通じた地域への愛着醸成や若者の関与の広がりが望めます。 ・音楽活動は地域活性化に向けた手段であることを踏まえ、イベントの開催自体が目的化しないよう、「文化が醸成された状態」の定義や、まちづくりへの波及プロセスを明確にすることが重要です。 ・若者の参画促進や若年層・子育て世代に選ばれるまちづくりに向け、具体的なロードマップを示すとともに、会の存続も見据えた持続可能な活動体制の構築が求められます。 ・プログラム内容や講師・参加者の裾野を広げることで、地域全体が文化芸術に親しめる機会を増やし、取り組みの効果をさらに高めていくことが期待されます。 ・同様の課題に取り組む他地域の活性化団体との交流や意見交換を進め、先進事例を取り入れながら活動の発展につなげていくことが望めます。								
小牧市市民活動促進委員会									
各項目の点数及び得点率	必要性	公益性	協働性	効果性	展望性	適正性	実行性	合計	
	52/80	37.5/60	27/40	21/40	11/20	12.5/20	14/20	175 /280	
	65.0%	62.5%	67.5%	52.5%	55.0%	62.5%	70.0%	62.5%	

コメント	• これまでの活動で培ってきた経験を生かし、「音楽」を桃花台の新たな文化として根づかせていくことは意義のある取り組みです。今回の事業を単発のイベントにとどめず、地域の魅力や資源、他に地域活動をしている団体ともつながり、より多くの人や団体が関わる取り組みへと発展させ、桃花台の将来を見据えた持続的な地域づくりにつなげていくことを期待します。 • イベント時には、事業の満足度や評価だけでなく、「今後、桃花台でどのような活動を望むか」「音楽祭や地域活動にどのように関わるができるか」など、市民の意向やニーズを把握するアンケートを実施し、今後のまちづくりに生かしてください。 • 出演や観覧にとどまらず、次世代や多世代が実行委員や運営サポーターとして企画段階から関わる機会を設けるなど、主体的に関われる仕組みを具体的に検討し、事業計画やスケジュールに反映してください。将来的に地域活動を担う人材としてどのように育て、継続的な関わりにつなげていくのかについても、十分に検討した上で取り組んでください。 • 事業の評価について、イベントの参加者数に加え、新たな運営メンバーや若い世代の参画人数、地域活動への関心度などについても、可能な範囲で数値目標を設定することを検討してください。次年度以降、事業による成果や変化を数字でも明確に示すことで、事業の実行力や継続性をさらに高めることができると考えます。
二次選考結果（協働提案事業選考委員会）	
結果	採択【協働する部署：東部まちづくり推進室】

②行政提案型 “はばたき” ※令和8年度応募なし

《選考要領》

【一次選考】協働のまちづくり実務者会議、小牧市市民活動促進委員会

《選考項目》

	項 目	内 容
1	必要性	実施する価値はあるか。市民ニーズに沿っている事業か。
2	妥当性	団体(市民)の特性が活かされるような事業内容や実施方法か。
3	協働性	役割分担が明確であるか、また、協働することで、より一層の効果が期待できる事業か。
4	効果性	第三者に対する具体的な効果や成果が期待できる事業か。
5	展望性	事業のビジョン(到達目標)が明確にされているか。
6	実行性	実行可能なスケジュールや事業内容か。
7	実現性	団体には事業を遂行する能力があると認められるか。

《採点基準》

点 数	評 価
5点	優れている
4点	やや優れている
3点	普通
2点	やや劣っている
1点	劣っている

【二次選考】協働提案事業選考委員会